

RubyWorld Conference 2017 基本計画書

プログラミング言語「Ruby」は、2013年2月にその開発から20年を迎えるとともに、5年ぶりのメジャーバージョンとして Ruby2.0 がリリースされ、Ruby は新たな時代へと突入し、様々な場面での利用が広がっています。

今年で9回目となる「RubyWorld Conference」を通じて、新しい普及の段階に突入しつつある Ruby が、多様な現実世界にどのように適合し、浸透していくのか、そのような普及過程と成長を考える機会となることを期待すると共に、これまで同様に先進的な利用事例や最新の技術動向、開発者教育の状況などの情報を発信することで、「Ruby のエコシステム(生態系)」を知ることができる場として以下のとおり開催いたします。

この実行委員会では、今年の開催において講演内容の一層の充実を図ることで参加者の満足度を向上させ、また、今後も持続可能な運営（開催規模、予算）を検討し、開催いたします。

1 開催の目的

■Ruby 市場、ビジネス利用の拡大

先進的な利用事例や最新の技術動向などの情報発信を通じて、Ruby 市場、ビジネス利用の拡大を図る。

2 「RubyWorld Conference 2017」の開催

① 日時：2017年11月1日（水）、2日（木）

② 場所：島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」 3階 国際会議場

③ 主催：RubyWorld Conference 開催実行委員会

（構成団体）（一財）Ruby アソシエーション、島根県、松江市、国立大学法人島根大学、
（独）国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校、
（独）日本貿易振興機構 松江貿易情報センター（ジェトロ松江）、
（公財）しまね産業振興財団、（一社）島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、
経済産業省 中国経済産業局

④ 今年の開催テーマ：Ruby の「エコシステム」 ～ Ruby の持続可能な生態系 ～

⑤ 基調講演者：まつもとゆきひろ（（一財）Ruby アソシエーション）

角谷 信太郎 氏（（一社）日本 Ruby の会）

⑥ その他講演者：プログラム検討委員会において講演者を選定

※一部の講演枠は、昨年に引き続き一般公募の予定

⑦ 来場者数見込み：両日とも 400 名

⑧ 入場料：5,000 円/名

※但し、一部の機関・関係者は無料の予定